

令和元年度

岡山市病院事業会計
決算審査意見書

岡山市監査委員

岡 監 第 1 0 4 号

令和2年7月29日

岡山市長 大森雅夫 様

岡山市監査委員	岸	堅	士
同	土	居	幸 徳
同	赤	木	一 雄
同	高	橋	雄 大

令和元年度岡山市病院事業会計決算審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により審査に付された令和元年度岡山市病院事業会計決算及び各証書類その他関係書類を審査した結果、別紙のとおり意見を提出します。

目 次

第1	審 査 の 対 象	1
第2	審 査 の 実 施 場 所 及 び 期 間	1
第3	審 査 の 着 眼 点 及 び 方 法	1
第4	審 査 の 結 果	1
1	業 務 の 概 要	2
2	予 算 の 執 行 状 況	2
3	経 営 成 績	4
4	財 政 状 態	6
5	む す び	10
	資 料	11

- (注) 1 文中の金額は、原則として万円単位で表示し、端数は切り捨てた。このため計数が一致しない場合がある。
- 2 文中の比率及び各表中、グラフ中の数値は、原則として表示の1桁下位で四捨五入した。このため計数が一致しない場合がある。
- 3 文中に用いるポイントとは、パーセンテージ間又は指数間の単純差引数値である。
- 4 各表中の符号の用法は、次のとおりである。
「0.0」・・・該当数値はあるが、単位未満のもの
「－」・・・算出不能、該当数値のないもの

令和元年度岡山市病院事業会計決算審査意見

第1 審査の対象

令和元年度岡山市病院事業会計決算

第2 審査の実施場所及び期間

監査委員室

令和2年6月3日から

令和2年7月29日まで

第3 審査の着眼点及び方法

審査に当たっては、岡山市監査基準に準拠し、市長から審査に付された令和元年度岡山市病院事業会計決算並びに証書類、事業報告書及び政令で定めるその他の書類が関係法令に準拠して作成されているか、事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているかどうかについて審査するとともに、関係者からの説明を聴取し、会計帳票等証書類との照合及び経営内容の動向を把握するため計数の分析を行い、年次比較等の検討を加えた。

第4 審査の結果

決算並びに事業報告書及び政令で定めるその他の書類は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、会計帳票等証書類と照合審査の結果、計数は正確であり、かつ、本年度の経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認めた。

なお、決算概要及び審査意見は、次のとおりである。

1 業務の概要

岡山市病院事業会計は、国立病院機構岡山市立金川病院の建物等の減価償却の費用計上、建物の維持管理に伴う経費負担や経年劣化に伴う修繕の実施、企業債の元利償還及び決算処理を行う目的で設置されたものである。

国立病院機構岡山市立金川病院は、平成 24 年度から指定管理者制度を導入し、独立行政法人国立病院機構が管理運営を行っている（指定管理期間：平成 24 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日）。

同病院は、内科、外科、眼科、皮膚科、リハビリテーション科の 5 科、病床数 30 床の体制で、救急告示病院にも指定されている。

(1) 業務実績

国立病院機構岡山市立金川病院は、利用料金制による指定管理者制度により独立行政法人国立病院機構が運営を行っているため、岡山市病院事業としての業務実績はない。

(2) 建設改良事業

本年度の建設改良事業はない。

2 予算の執行状況

(1) 収益的収入及び支出

収益的収入及び支出の予算執行状況は、次表のとおりである。（資料第 1 参照）

収益的収入及び支出の予算執行状況

区 分	予 算 額 A	決 算 額 B	執 行 率 B/A	予算額に比し 増、減(△) 又は不用額
	円	円	%	円
収 益 的 収 入	33,806,000	32,129,314	95.0	△ 1,676,686
収 益 的 支 出	51,222,000	49,554,303	96.7	1,667,697

(注) 決算額のうち、収益的収入における仮受消費税及び地方消費税は 0 円、収益的支出における仮払消費税及び地方消費税は 52,703 円である。

収益的収入決算額 3,212 万円は、予算額 3,380 万円に対し 95.0%の執行率、収益的支出決算額 4,955 万円は、予算額 5,122 万円に対し 96.7%の執行率となっている。

(2) 資本的収入及び支出

資本的収入及び支出の予算執行状況は、次表のとおりである。(資料第2参照)

資本的収入及び支出の予算執行状況

区 分	予 算 額 A	決 算 額 B	執 行 率 B/A	予算額に比し 増, 減 (△) 又は不用額
	円	円	%	円
資本的収入	24,261,000	21,260,991	87.6	△ 3,000,009
資本的支出	24,261,000	21,260,991	87.6	3,000,009

(注) 決算額のうち、資本的収入における仮受消費税及び地方消費税並びに資本的支出における仮払消費税及び地方消費税は0円である。

資本的収入決算額 2,126 万円は、予算額 2,426 万円に対し 87.6%の執行率、また、資本的支出決算額 2,126 万円は、予算額 2,426 万円に対し 87.6%の執行率となっている。

(3) 建設改良費の翌年度繰越額

建設改良費の翌年度繰越額は、該当がない。

3 経営成績

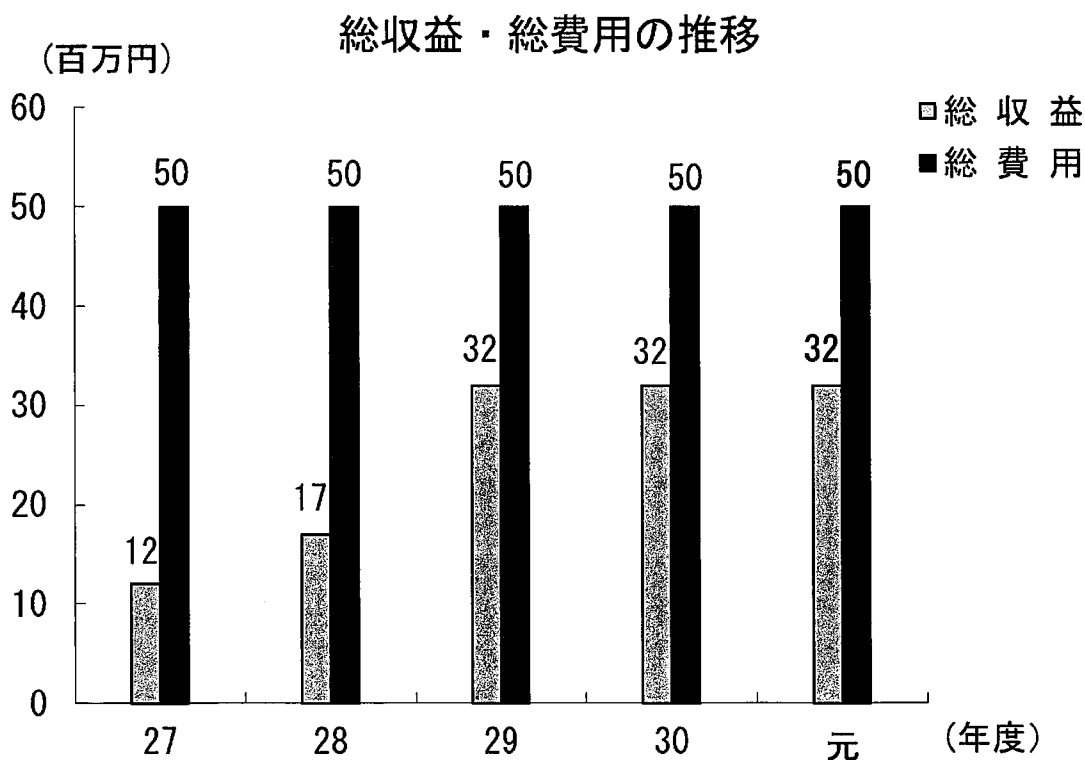
(1) 総合成績

総合成績は、次表のとおりである。(資料第3参照)

総合成績

年度	総収益			総費用			損益(△損失) A-B	総収支比率 A/B
	金額 A	前年度比	指数	金額 B	前年度比	指数		
	円	%		円	%		円	%
27	11,761,083	101.6	100	49,852,541	98.9	100	△ 38,091,458	23.6
28	16,599,414	141.1	141.1	49,921,419	100.1	100.1	△ 33,322,005	33.3
29	31,809,505	191.6	270.5	50,215,758	100.6	100.7	△ 18,406,253	63.3
30	31,755,828	99.8	270.0	49,548,639	98.7	99.4	△ 17,792,811	64.1
元	32,129,314	101.2	273.2	49,554,303	100.0	99.4	△ 17,424,989	64.8

(注) 指数は平成27年度を100として算出。



総収益は3,212万円で、前年度に比べ37万円(1.2%)の増収となり、総費用は4,955万円で、前年度に比べ微増となっている。その結果、総収支比率は64.8%を示し、1,742万円の純損失を生じ、当年度未処理欠損金(累積欠損金)は2億4,940万円となっている。(資料第4参照)

(2) 経常収支

経常収支は、次表のとおりである。(資料第3参照)

経常収支

科 目	元 年 度		30 年 度		増、減(△) C (A - B)	増減率 C / B
	金 額 A	構成比	金 額 B	構成比		
	円	%	円	%	円	%
医 業 収 益	698,296	2.2	324,810	1.0	373,486	115.0
その他医業収益	698,296	2.2	324,810	1.0	373,486	115.0
医 業 外 収 益	31,431,018	97.8	31,431,018	99.0	0	0
受取利息及び配当金	12	0.0	12	0.0	0	0
負担金交付金	10,170,015	31.7	10,537,837	33.2	△ 367,822	△ 3.5
長期前受金戻入	21,260,991	66.2	20,893,169	65.8	367,822	1.8
経常収益計	32,129,314	100	31,755,828	100	373,486	1.2
医 業 費 用	35,518,182	71.7	35,175,095	71.0	343,087	1.0
経 費	645,593	1.3	302,506	0.6	343,087	113.4
減価償却費	34,872,589	70.4	34,872,589	70.4	0	0
医 業 外 費 用	14,036,121	28.3	14,373,544	29.0	△ 337,423	△ 2.3
支払利息及び 企業債取扱諸費	10,170,027	20.5	10,537,849	21.3	△ 367,822	△ 3.5
長期前払消費税償却	3,813,391	7.7	3,813,391	7.7	0	0
雑 支 出	52,703	0.1	22,304	0.0	30,399	136.3
経常費用計	49,554,303	100	49,548,639	100	5,664	0.0
経常損益	△ 17,424,989		△ 17,792,811		367,822	△ 2.1

経常収益は3,212万円で、前年度に比べ37万円(1.2%)の増収、経常費用は4,955万円で、前年度に比べ微増となっており、経常損益は1,742万円の損失となっている。

経常収益の増収は、主に経費に対する一般会計繰入金であるその他医業収益が増加したためである。

経常費用の微増は、主に経費が増加したためである。

(3) 特別損益

特別損益は、該当がない。

4 財政状態

(1) 資産、負債及び資本

要約比較貸借対照表は、次表のとおりである。(資料第4参照)

要約比較貸借対照表

科 目	元年度末現在		30年度末現在		増、減(△) C(A-B)	増減率 C/B
	金額 A	構成比	金額 B	構成比		
	円	%	円	%	円	%
固定資産	735,315,270	100.0	774,001,250	100.0	△ 38,685,980	△ 5.0
流動資産	300,000	0.0	300,000	0.0	0	0
資産合計	735,615,270	100	774,301,250	100	△ 38,685,980	△ 5.0
固定負債	543,117,827	73.8	564,753,131	72.9	△ 21,635,304	△ 3.8
流動負債	21,935,304	3.0	21,560,991	2.8	374,313	1.7
繰延収益	51,750	0.0	51,750	0.0	0	0
負債合計	565,104,881	76.8	586,365,872	75.7	△ 21,260,991	△ 3.6
資本金	419,892,157	57.1	419,892,157	54.2	0	0
剰余金	△ 249,381,768	△ 33.9	△ 231,956,779	△ 30.0	△ 17,424,989	7.5
資本合計	170,510,389	23.2	187,935,378	24.3	△ 17,424,989	△ 9.3
負債・資本合計	735,615,270	100	774,301,250	100	△ 38,685,980	△ 5.0

ア 資産

資産の総額は7億3,561万円で、前年度末に比べ3,868万円(5.0%)減少している。これは、固定資産の減少によるもので、主に、減価償却により建物が2,779万円(5.2%)、構築物が708万円(24.3%)減少したためである。

流動資産は30万円で、前年度末と同額である。

イ 負債

負債の総額は5億6,510万円で、前年度末に比べ2,126万円(3.6%)減少している。これは、流動負債は37万円(1.7%)増加したが、固定負債が2,163万円(3.8%)減少したためである。

ウ 資本

資本の総額は1億7,051万円で、前年度末に比べ1,742万円(9.3%)減少している。これは、剰余金が減少したためである。

資本金は4億1,989万円で、前年度末と同額である。

エ 財務比率

財務比率は、次表のとおりである。(資料第5参照)

財 務 比 率

分 析 項 目	元年度	30年度	算 式
固定資産対長期資本比率 (望ましい比率 100%以下)	% 103.0	% 102.8	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$
流 動 比 率 (望ましい比率 200%以上)	1.4	1.4	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
当 座 比 率 (望ましい比率 100%以上)	1.4	1.4	$\frac{\text{現金預金} + (\text{未収金} - \text{貸倒引当金})}{\text{流動負債}} \times 100$

固定資産対長期資本比率は、前年度末に比べ0.2ポイント低下し103.0%となっている。
流動比率及び当座比率は、前年度末と同率である。

(2) 企業債

企業債残高の状況は、次表のとおりである。

企 業 債 残 高

年 度	前年度末残高 A	増 加 高 (借入額)	減 少 高 (償還額)	増, 減 (△) 差引増減高 B	増減率 B/A	年度末残高
	円	円	円	円	%	円
27	633,500,000	0	594,522	△ 594,522	△ 0.1	632,905,478
28	632,905,478	0	5,466,460	△ 5,466,460	△ 0.9	627,439,018
29	627,439,018	0	20,531,727	△ 20,531,727	△ 3.3	606,907,291
30	606,907,291	0	20,893,169	△ 20,893,169	△ 3.4	586,014,122
元	586,014,122	0	21,260,991	△ 21,260,991	△ 3.6	564,753,131

本年度末の企業債残高は5億6,475万円で、前年度に比べ2,126万円(3.6%)減少している。また、利子負担率は1.8%となり、前年度と同率である。(資料第5参照)

(3) 一般会計からの繰入金

一般会計からの繰入金は、次表のとおりである。

一般会計からの繰入状況

区 分		元年度 A	30年度 B	増, 減 (△) C (A - B)	増減率 C / B
病院事業収益	金川病院管理負担金	円 698,296	円 324,810	円 373,486	% 115.0
	企業債利息償還額負担金	10,170,015	10,537,837	△ 367,822	△ 3.5
収益的収入計		10,868,311	10,862,647	5,664	0.1
病院事業資本的収入	企業債元金償還額負担金	21,260,991	20,893,169	367,822	1.8
資本的収入計		21,260,991	20,893,169	367,822	1.8
合 計		32,129,302	31,755,816	373,486	1.2

本年度における一般会計からの繰入金については、収益的収入は1,086万円で、前年度に比べ微増、資本的収入は2,126万円で、前年度に比べ36万円(1.8%)の増加となっており、合計は3,212万円で、前年度に比べ37万円(1.2%)の増加となっている。

(4) キャッシュ・フローの状況

キャッシュ・フロー計算書は、一事業年度における資金の増加又は減少の状況を、業務活動、投資活動及び財務活動に区分して表したものである。

本年度のキャッシュ・フロー計算書は、次表のとおりである。

キャッシュ・フロー計算書

区 分		元年度	30年度	増, 減 (△)
業務活動によるキャッシュ・フロー		円	円	円
	当年度純利益	△ 17,424,989	△ 17,792,811	367,822
	減価償却費	34,872,589	34,872,589	0
	長期前払消費税償却	3,813,391	3,813,391	0
	長期前受金戻入額	△ 21,260,991	△ 20,893,169	△ 367,822
	受取利息及び配当金	△ 12	△ 12	0
	支払利息及び企業債取扱諸費	10,170,027	10,537,849	△ 367,822
	小 計	10,170,015	10,537,837	△ 367,822
	受取利息及び配当金	12	12	0
	支払利息及び企業債取扱諸費	△ 10,170,027	△ 10,537,849	367,822
計 (A)	0	0	0	
シユによる投資活動によるキャッシュ・フロー	一般会計からの繰入金による収入	21,260,991	20,893,169	367,822
	計 (B)	21,260,991	20,893,169	367,822
シユによる財務活動によるキャッシュ・フロー	建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△ 21,260,991	△ 20,893,169	△ 367,822
	計 (C)	△ 21,260,991	△ 20,893,169	△ 367,822
資金増減額 (A + B + C)		0	0	0
資金期首残高		300,000	300,000	0
資金期末残高		300,000	300,000	0

業務活動によるキャッシュ・フローにおいては、資金の増減はない。投資活動によるキャッシュ・フローにおいては、一般会計繰入金の収入により 36 万円の資金増加となっている。一方、財務活動によるキャッシュ・フローにおいては、企業債の償還により 36 万円の資金減少となっている。

この結果、資金の増減はなく、本年度の資金期末残高は期首残高と同額の 30 万円となっている。

5 む す び

(1) 運営状況の概要について

本事業については、国立病院機構岡山市立金川病院の建物の維持管理に伴う経費や、企業債の元利償還金等の支出及びそれらに対応した負担金収入などの経理並びに建物等の減価償却費の費用計上などの会計処理を行っている。

(2) 経営成績について

本年度の経営成績についてみると、総収益 3,212 万円、総費用 4,955 万円で、1,742 万円の純損失を生じ、累積欠損金は前年度末の 2 億 3,197 万円から 2 億 4,940 万円へと増加しているが、主な要因は、減価償却費によるものである。

(3) 意見・要望

国立病院機構岡山市立金川病院は、内科、外科、眼科、皮膚科、リハビリテーション科の 5 科、病床数 30 床の体制で、救急告示病院にも指定されており、地域医療を担っている。

指定管理者である独立行政法人国立病院機構（指定管理期間は令和 3 年度で終了）との連携を密にし、引き続き地域医療に貢献されるよう要望する。